

特集

エイジングと加齢眼疾患

序論：エイジングと眼

坪田一男*

眼科の疾患にはさまざまなものがあるが、80%以上の疾患が加齢に関連する。白内障、緑内障、加齢黄斑変性、糖尿病網膜症などのほかにも、ドライアイも加齢により疾患リスクが高まる。ご存知のように現在の医療費は増大の一途をたどっており、医療費の抑制は重大課題として国も方策を考えているが、期待されている対策が予防医学の拡充と実践である。眼疾患を含め、他の領域の多くの疾患がエイジングと関係していることから、エイジングに介入すれば多数の疾患を同時に予防できる可能性がある(図1)。現在、多くの疾患がエイジングの視点から研究され語られるようになってきたのはそのためだ。そこで今回、5つの疾患を取りあげてエイジングとの関係を中心に解説をお願いした。

まず、小川葉子先生と山根みお先生(慶應大学)にはドライアイをエイジングから解説してもらった。ご存知のようにドライアイは急激に増加している現代病であるが、超高齢社会とも無縁ではない。小川先生は骨髄移植後のGVHDにかかわるドライアイの世界的研究者だが、GVHDはエイジングが加速した状態という仮説のもとにユニークな研究を展開している。その研究の成果を学んでいただければ幸いだ。

一方で、角膜内皮はエイジングとともに減少し、Fuchs 角膜内皮変性症はある意味内皮細胞が異

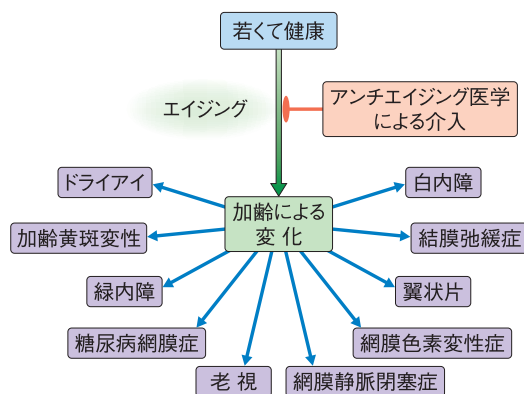


図1 エイジングへの介入

常に減っていく早老症と考えることができる。この疾患については奥村直毅先生と小泉範子先生(同志社大学)に解説をお願いした。また、緑内障は現在失明率第1位の眼疾患であり、40歳以上になると急激に罹患率が上がることがわかっている。檜森紀子先生と中澤 徹先生(東北大学)にエイジングの観点からユニークな論説をお願いした。

さて、近視は子供時代に発症し、遺伝の影響も強く受ける疾患であることは間違いない。しかし考えてみれば、生まれた時には遠視であり、成長とともに進行することから、ある意味ではエイジングにより悪化している疾患と考えることもできる。この新しい視点から慶應大学の鳥居秀成先生に予防や治療への可能性も含めて執筆をお願いした。

そして最後に、全身の加齢ともかかわる糖尿病

*Kazuo TSUBOTA 慶応義塾大学医学部眼科学教室

網膜症について神田敦宏先生と石田 晋先生（北海道大学）に執筆をお願いした。糖尿病は加齢を10年促進すると言われ、糖尿病網膜症もある意味網膜の早老症でありエイジングとも直接絡む。眼科の中では糖尿病網膜症は血糖値が高いために起きると単純に考えられがちだが、そこにはエイジングの影響も大きく働く。

今回は5つの疾患をとりあげてエイジングの視点からそれぞれ解説していただいたが、加齢黄斑変性や白内障、老視など、エイジングと関連する眼疾患は数多い。眼疾患をエイジングという視点から見直すことによって外来診療の幅が広がり、将来は新しい治療法の開発も行われることを期待している。